

平成27年度第1回社会教育委員会議会議録						
開催日	平成27年6月23日(火)			開会時間	14時00分	
会 場	市役所6階 602会議室			閉会時間	15時43分	
委員の 出欠状 況	関口 正人	出	加藤 聡司	欠	磯崎 茂	欠
	鈴木 直幸	欠	木村 聡子	出	五十嵐 裕子	欠
	小田原紀慧子	出	川崎 みち子	出	坂本 真人	出
	○鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	欠		
	村山 喜三江	出	長田 真希	出		
	戸部 恵一	出	◎ 大谷 鐵子	出	◎議長 ○副議長	
傍聴者	なし					
事務局	【教育委員会】大久保教育長、上篠教育部長 【生涯学習課】富岡次長兼課長、亀井主幹兼課長補佐、鈴木統括主査、 細野統括主査、磯崎主任 【スポーツ青少年課】亀井課長					
議 題	1 平成27年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について 2 平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画について(資料2) ア 生涯学習事業について イ 文化財保護事業について ウ スポーツ振興事業について エ 青少年担当事業について 3 平成27年度社会教育関係団体への補助金交付案について(資料3) 4 社会教育推進に関する意見交換について テーマ「社会教育委員としての2年間を振り返って」について					

1 開会

2 あいさつ

○大久保教育長

社会教育は、個人の自立に向けた学習のニーズであったり、絆作り、あるいは地域づくりに向けた体制作りのニーズに対応する上で非常に中心的な役割を担っていくことが期待されている。地域住民同士が学びあう、教えあう、そういった相互学習を通して、それぞれの人々の教養の向上であるとか、あるいは健康の増進等を図る、また人と人との絆を強くする、そういう役割が本来はこめられていると思う。しかし、和光市という土地柄もあるのか、そういう課題にみんな向き合うのが難しくなっている。

実際になにかことが起きたときに地域としてどういう係わり合いが出来るのか、自助共助公助こういった関わりをどうしていくのかが課題となっている。

第1回目ということで、それぞれの立場で忌憚ないご助言をいただきながら、和光市の社会教育の充実にお力添えいただければありがたいと思っている。

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

3 議題

(1) 平成27年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について

○議長(議事進行)

平成27年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1「平成27年度和光市教育行政の基本目標と重点施策」に基づき説明。

○各委員

質疑なし

(2) 平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画について

ア 生涯学習事業について

イ 文化財保護事業について

ウ スポーツ振興事業について

エ 青少年担当事業について

○事務局

資料2「平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画」に基づき、事業実施に関する写真と合わせて説明。

○村山委員

新たに、わこうっこクラブ・放課後図書室事業と載っているが、その会場が第四小学校、新倉小学校、第三小学校、第五小学校となっているが、他の学校を今後広めていく予定はあるのか。

○事務局

わこうっこクラブについては、モデル校ということで第四小学校を設定した。

図書室開放事業は、新倉小・第三小・第五小で行っているが、どちらの事業も検証してのことになるが、今後、わこうっこクラブを推進し、徐々に増やしていく予定。

(3) 平成27年度社会教育関係団体への補助金交付案について

○事務局

資料3「平成27年度社会教育関係団体への補助金交付案」に基づき説明。

○議長

今説明のあった補助金交付について、みなさんからご質問等あればお願いします。

○坂本委員

総額で42万円減額されているが、それは予算が42万円減ったということか。それとも、内容的に減額されたのか。

○事務局

体育協会の補助金については、各団体の周年事業に対する補助が含まれている。

平成26年度においては、軟式野球・剣道連盟・少年サッカー連盟・スポーツ少年団、水泳連盟の5団体に対して周年事業の補助があったが、平成27年度においては、ミニバスケット連盟・小学生バレーボール連盟、ソフトテニス連盟の3団体になるので、その周年事業に対する補助が26年度と比較して減額になっている。

ボーイスカウト和光団・和光市PTA連合会の補助金は、1万円減額になっているが、平成24年度から市全体で補助金の見直しをすることとなり、各団体と話し合いを行い減額することとした。

○議長

では、ないようでしたら事務局には各団体へ交付の手続きを進めて頂きたいと思います。

(4) 社会教育推進に関する意見交換について

【テーマ】「社会教育委員としての2年間を振り返って」について

○事務局

この会議をもって、委員の皆様の2年間の任期中の会議は終了いたします。今回は、社会教育委員としての2年間を振り返っての感想、また今後、社会教育委員に期待することを、お1人ずつ伺いたい。

○関口委員

多様な取組をされていて、改めて感心した。

スポーツ教室・わこうっこクラブ・図書室開放事業など、子どもたちに時間と場所を提供するということが大事なのかと思う。それを数校指定して検証して、全校に広めていくということは素晴らしいと思う。

埼玉県内の他の市では放課後の子どもたちの居場所がなく、児童館等が駆け込み寺のようになり、また児童館が民間運営になっているため対応に困っている。親御さんがいない家庭もあるので、学校自体が受け皿となり安心安全の観点から、このような取組をしていただくのはありがたい。

図書室については、高校生も学校図書館の利用・図書の貸出しが減少傾向にあるので、小さい時から本に親しむ機会を設定するのは素晴らしい。

○小田原委員

わこうっこクラブや図書室開放事業という放課後の子どもたちの居場所づくりは素晴らしい。学童は働いているお母さんたちだけのための場所であるが、専業主婦のお母さんたちもすごく必要としている。昔は暗くなるまで外で遊んでいたが、今は危なくて遊ばせられないし、お母さんたちも子育ての面でとても大変な思いをしているので、子育て支援という意味では素晴らしい事業だと思う。

○川崎委員

この会議に参加をし色々な事業を知り、子どもたちの場が色々開けていることに気がついた。参加する立場として、興味がある講座はあるが、平日の講座が多く、休みの日しか時間がないので曜日・時間帯が合わず参加が出来なかった。

今後、休日に組める講座も検討して欲しい。

○鳥飼委員

わこう市政学習おとどけ講座もたくさん講座を設けている。自分は詩吟の講座を行っているが、参加者が少ないので、どうしたら参加者が増えるか研究しながら行っている。

○村山議員

事業報告でたくさんの事業が報告されたが、なかなか参加が出来なかった。自分の関係しているものは積極的に参加できたが、他のものに対して参加が出来なかったのが残念だった。集まる人が少ないのはPRをどうしたらいいのかが課題になる。内容がもう少し詳しく伝われば参加者が増えるのではないかと思う。

市内には色々な団体があるので、それらの団体とうまく連携を取り、タイアップして何かをやっていければいいと思う。

新事業(わこうっこクラブ・図書室開放事業)について、開催校以外の子どもは参加できるのか。

○事務局

わこうっこクラブは、第四小学校の全児童が対象。図書室開放事業は、各校(新倉小・第三小・第五小)の4年生以上の児童が対象である。

今後、検証した結果、推進していくこととなれば、その学校の児童対象に広めていく予定。

○戸部委員

県の社会教育委員対象の南部の研修会に参加した。

県内それぞれの地域で色々な取組を行っていて、一生懸命やっていると感じた。上田知事が最近、『いい子が育つ都道府県ランキング』で埼玉県は4位であると、よく言っている。(1位は秋田県、2位は宮崎県、3位は山梨県)

埼玉県がここまで良くなっているのは、子どもも大人も含めて色々なものが提供されて生涯学習に役立つ場面づくりがあるからだと思う。

○木村委員

地域との関係が希薄化していて、自治会や子ども会の加入率が下がっているので、そういうところの繋がりを作るのが育てる会連合会の役割だと思っている。

スマイル事業は、子どもたちの主体性を通して子どもが大人になったときに地域に戻ってきて、地域の活性化を手伝ってくれるということを期待して行っている事業である。

第1回は盛況だったが、今年の5月に行ったときは周知が足りず、また皆さんの思いも共通するものが得られず、達成感がなかった。広報活動に弱い面があるので、育てる会連合会として、アプローチの仕方を考えていく必要があると思う。

子育てをしながら働いている世代はとても多く、子どもが17時までどうしたらいいのかに危険・不安を感じているご両親はたくさんいるので、わこうっこクラブ・図書室開放事業はとてもいい事業だと思う。子どもが育ちやすい、子育てがしやすい街として和光市をアピールして欲しい。

○長田委員

子どもを産んで初めて地域の人としていろんなものに目が向いたりする。

若い世代の人は自治会に入るきっかけがないので、どのように自治会に入るかを周知していけばいい。

学童に入れない現状の中で、放課後の子どもの居場所づくりというのはとてもいいこと。しっかり検証して、早急に多くの学校にも広めてもらいたい。

○坂本委員

少年非行白書を読むと全体的に少年の非行は減少しているが、低年齢化し中高生が増えている。新聞などを見ていると、中高生の事件が気になる。

子どもたちは、家庭とか地域の中で生きているので、学校教育だけで教育は終わるはずがない。

地域に根差した学校教育、社会教育とのつながりを考えてもらいたい。

中高生を対象に、社会教育の中で何か行って欲しい。

小学生までは、図書室開放やわこうっこクラブがあるが、中高生になると放り出されてしまうので、中高生に学校以外で活動出来る場を広げ、それを地域がきちっと見守っていくことが大切。

そういう点では和光市は恵まれていると思うので、後はアイデアと知恵を使って、他市に自慢できるような活動をして欲しい。

○大谷議長

5月の末に樹林公園で防災フェアがあり、市内の中学生在がたくさん参加していた。第一戦で活動していて、何かあったときは私たちの大きな支えとなり、助けてくれるのかなと思った。

地域の日々のあいさつがつながりになるので大切にしていきたい。

市主催の講座の日程が重なることがあるので、日付の設定をする際に重ならないように配慮してもらえば、参加率も増えると思うし、若い世代の参加も増えると思う。

○教育長

中学生・高校生の活躍の場をどうしていくかは大きな課題だと思っている。

中学生に関しては学校に対する指導助言を行っている。部活関係では外部指導者をどの学校でも活用している。3～4年の間で、中学生がもし災害が遭ったときにどういう活躍が出来るかという位置づけをやっている。

高校生に関しては生活の実態がわからないため、施策的に打ち出せない。和光市に住んでいる高校生が全部和光市にいたのであればわかるが、ほとんど散らばってしまう。逆に、和光に通ってきている高校生の居場所づくりは、中央公民館に学習スペースを設けて、学校帰りに宿題をやったり、集団で勉強したり出来るような形も整えている。

皆さんに見えない部分ではあるが、そういうことを意識しながら子どもたちの居場所を作っていこうという取組みも今、進めているところである。いろいろな分野から助言いただければ反映していきたいと思う。

4 その他

(1)今後のスケジュール

5 閉会